

【特集】知と社会 Vol.30

## 世界と競い、世界を救う 熊本大学発「知のフロンティア」

### 5 地域とともに

響け音楽、輝け子どもたち  
41回目を迎えた「熊大フィル巡回公演」

### 7 研究室探訪

タタに、愚直に、“実践人”を目指す  
文学部コミュニケーション情報学科 水元ゼミ

### 9 国際交流

アジア連携の一翼を担う学术交流拠点  
熊本大学韓国KAISTオフィス開所

### 11 卒業生ジャーナル

(株)日立製作所関東支社公共情報統括グループ部長代理 野村香緒里さん  
熊本大学教育学部附属小学校教諭 室崎真一さん

### 13 くまもと自慢 file.2

魅惑の街角アートパフォーマンス

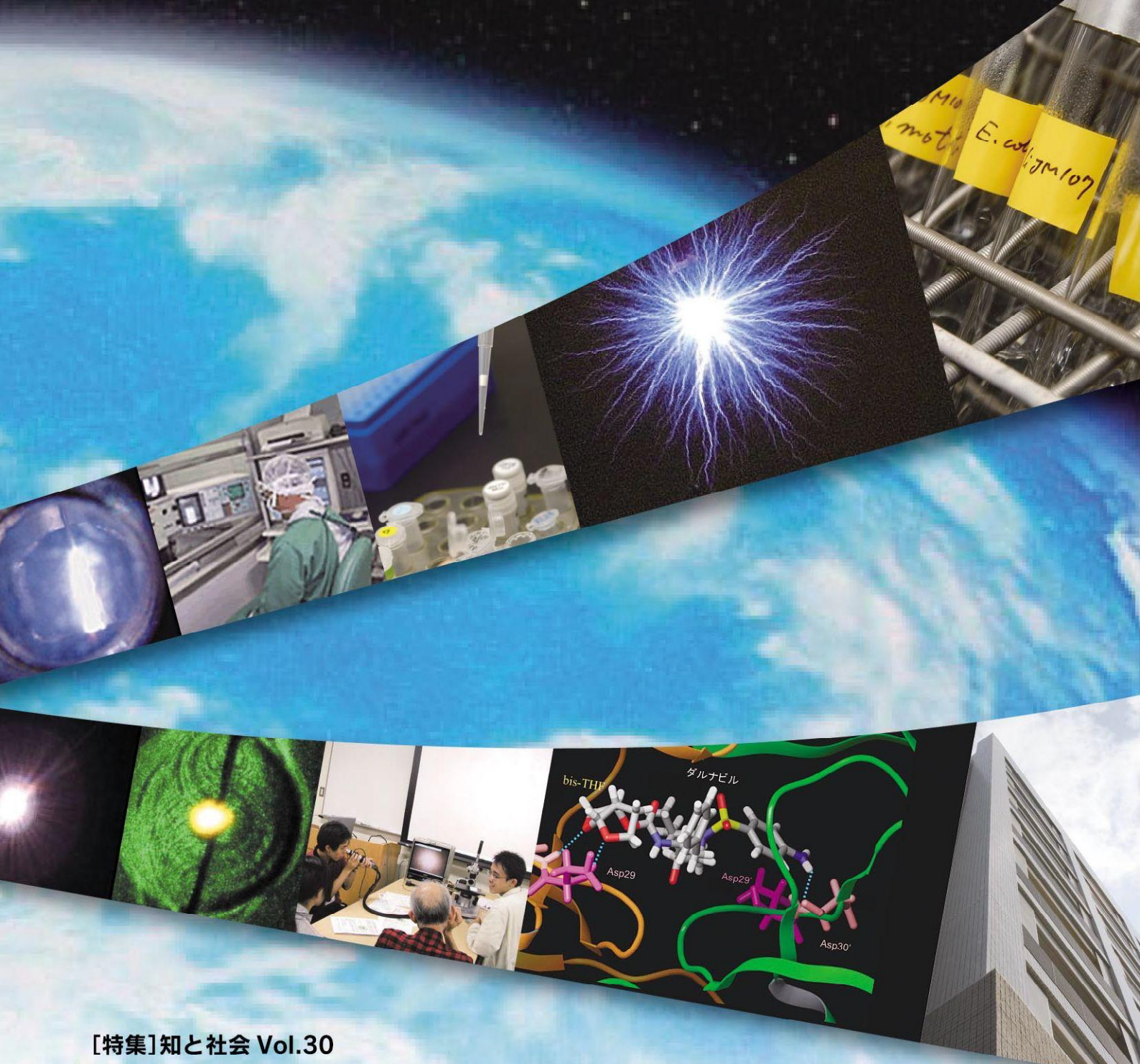
### 14 Topics

### 15 INFORMATION



国立大学法人  
熊本大学

Kumamoto University



[特集]知と社会 Vol.30

# 世界と競い、世界を救う

## 熊本大学発「知のフロンティア」

環境、食の安全安心、がん、そしてエイズ…。人類が抱えるさまざまな問題に、科学がどう答えるのか。熊本大学は、これらの問いに果敢に挑戦する研究を進め、世界をリードする若き研究者の育成に努めている。国の「グローバル COE プログラム」※ に採択された本学の国際教育研究拠点プログラムに焦点を絞り、世界と競い、世界を救う「知のフロンティア」を紹介する。

※国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援した 21 世紀 COE (平成 14 年度開始) に続き、世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的に、平成 19 年度からスタートした文部科学省のプログラム。平成 19 年度は 111 大学、同 20 年度は 130 大学から合せて 596 件の申請があり、うち 40 大学 131 件のプログラムが採択されている。同 COE への申請に際し、厳しい学内審査を行っている本学の採択数は 3 件で 40 大学中 11 位。

「知のフロンティア」を究める ▶▶▶▶▶▶

# エネルギーの一瞬の力を活かす 「衝撃エネルギー工学グローバル先導拠点」

■分野：機械、土木、建築、その他工学 ■実施期間：平成 20～24 年度

■中核となる専攻等：大学院自然科学研究科複合新領域科学専攻



拠点リーダー 秋山秀典

大学院自然科学研究科教授  
(バイオエレクトリクス研究センター長)

## 突出した衝撃エネルギー研究

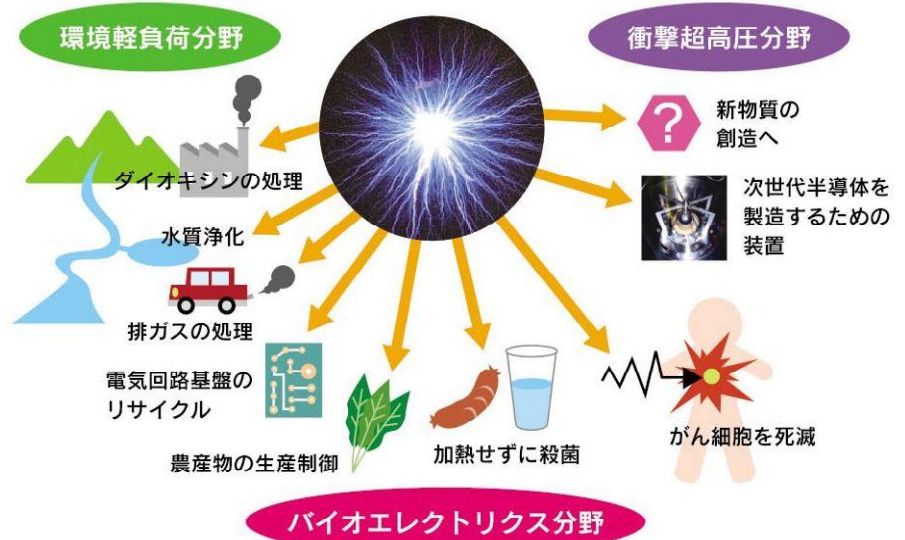
特殊な装置を使って電気エネルギーや化学エネルギーを瞬間的に開放して得られる衝撃エネルギー（パルスパワー）を使うと、水を瞬間的にプラズマ化したり、地球中心部に相当する高圧力を発生させたり、通常の技術では不可能な現象や反応を引き起こすことができる。この事実をもとに、本学は衝撃エネルギーに関する研究にいち早く取り組み、21世紀 COE (P1※参照) で高い評価を受けた。特に、衝撃エネルギーを利用して自然界にない物質の作成につながる研究として注目を集めた。

また、衝撃エネルギーを適切に制御して使いこなすことで、人類を悩ませる多くの問題に解決の糸口を示した意義も大きい。例えば、湖やダムなどの水面上に繁殖して環境汚染の一因となっている植物プランクトン（アオコ）に衝撃エネルギーを照射し、プランクトンの細胞内で浮き袋の役割を果たしている気泡を破壊して水質浄化につなげたり、衝撃エネルギーを照射してがん細胞を死滅させたり、加熱せずに飲料水を殺菌したりするほか、精密機械に使われる金属類だけを取り出して再利用につなげる研究などだ。

## 新産業創生に膨らむ期待と人材育成

衝撃エネルギーの研究によりさまざまな新産業づくりへの期待が膨らむ中、グローバル COE プログラムで

## 多くの分野に広がる衝撃エネルギーの利用



は、衝撃超高压分野、バイオエレクトリクス分野、環境軽負荷分野における先導的拠点づくりを行う。そのため、本拠点で最重要のミッションとして取り組んでいるのが「衝撃エネルギー科学と工学を基礎とし、専門の枠を超えた幅広い見方ができ、かつ創造性とグローバルな視野を持つ先導的な人材の育成」だ。拠点リーダーの秋山教授は「研究者は一つの分野だけを究めればよいという時代は終わりました。他の分野も分かり、かつ専門分野に秀でた人を育てる。理想的な教育研究の環境をつくるには手間ひまがかかるが、妥協しないでやります」と意欲的に話している。

週1回COE 関係者全員が参加する英語による「若手融合プロジェクトゼミナール」のほか、海外のリエゾンラボ※の設置や派遣、2つ目の学位取得の奨励などを通して、若手研究者

にとつての障壁を除く「IMPACT（衝撃）プログラム」を始動する。衝撃エネルギーを利用した新たな技術や産業が創生されるとき、日本が世界に誇る「ものづくり」の系譜には、本学と本学出身の研究者の足跡が記されるに違いない。

## 若手研究者育成のためのIMPACTプログラム

**I**nternational Liaison Lab.

海外リエゾンラボの設置と派遣(文化の壁)

**M**ultiple Degrees

2つ目の学位取得(専門の壁)

**P**ost21stCOE Curriculum

系統的・体系的なカリキュラム選択

**A**dvanced ASO Camp

1週間英語で国際先導若手研究者の阿蘇合宿研修(国境の壁)

**C**ommunication Skills

英語による情報発信能力の育成(言語の壁)

**T**alented Seniors

若手研究者の経験不足を補うシニア知恵袋プログラム(経験の壁)

※リエゾンラボは、大学院生、ポストドクター(博士号取得後間もない研究者)、実績のある研究者や教員などが、研究室の枠を超えてともに研究する活動や環境を指す。





地域とともに



# 熊本大学フィルハーモニーオーケストラ 響け音楽、輝け子どもたち 41回目を迎えた「熊大フィル巡回公演」

昭和 28 年の発足以来、「音と心のハーモニー」をモットーに、キャンパスに美しいハーモニーを響かせている「熊本大学フィルハーモニーオーケストラ」(通称・熊大フィル)。毎年夏休みに、熊本県内の小中学校で巡回公演※を行っています。今夏 41 回目を迎えた熊大フィル巡回公演の様子を紹介します。

## 生きた音楽に触れて感じて

熊本県宇土市にある宇土東小学校の体育館。“ファーン”とさまざまな楽器の音色がゆっくりと重なり、チューニングの音が広がっていきます。そして、ビゼーの「カルメン」の 1 節が“ジャン”と高らかに響くと演奏会の始まりです。子どもたちは吸い込まれるように前を見つめ、演奏に聴き入ります。

「巡回公演は子どもたちの反応が

ダイレクトに伝わってくるので、楽しませることを大切にステージを構成します。公演をきっかけに音楽を始めてもらえたら嬉しい」と熊大フィル部長の川原久未さん(理学部 3 年)。その言葉通り、水笛やおもちゃのラッパに合わせてモーツァルトの「おもちゃのシンフォニー」を演奏したり、軽快なアンダーソンの「シンクペーティッド クロック」では大きな時計を持つて学生が踊ったり、アンコールまでの全 9 曲、子どもたちが飽きずに楽しく聴ける工夫が随所に織り込まれています。

## オーケストラが奏でる教育効果

幕間の休憩時間には、ステージを下りた部員と子どもたちが直に触れ合います。恐る恐る楽器に触れてみたり、音を出してみたり。子どもたちの歓声とさまざまな楽器の音色で会場は大賑わいです。「コントラバスで高い音や低い音が出た!」「とっても楽しい」と満面の笑顔で話すのは、宇土東小 3 年生の本田真夕さんと吉田莉彩子さん。チューバに触った同小





熊本県宇土市立宇土東小学校体育館で(9月2日)

5年生の廣田晃一さんは「最初は全然音が出なかったけれど、お兄さんが『唇をブルブルさせたらいいよ』って教えてくれたら吹けた」と満足そう。

様子を見守っていた同小の宇野哲博校長は「演奏や楽器紹介が分かりやすく良かったですね。普段目にすることがない楽器に触れることができ、子どもたちにとって何よりの体験になったと思います。夏休みが終わってすぐの時期だけに、子どもたちが何かに集中する時間が持たことも大変有意義で有難いです」と感謝を込めて語っていました。

## 世代を超えて伝わる感動

フィナーレは、聴きに來ていた保護者も一緒に会場全員で「赤とんぼ」を合唱。同小の全校児童を代表して、6年生の高濱宏郁さんが「私の両親も20年くらい前に熊大フィルに入っていたそうです。今日は仕事で来られないのを

とても残念がっていました。CDで聴くのと音が全然違って感動しました。私も大学生になったらオーケストラに入りたいです」と、熊大フィルの歴史を感じさせるお礼の言葉を述べると、ヴァイオリン奏者の一人、松本恵さん(教育学部3年)は、ひと際嬉しそうに笑顔になりました。松本さんは、中学生の頃に巡回公演を聴いた経験があり、大学の入学式で再びその音色を耳にしたことがきっかけで入部したからです。生で聴くオーケストラの感動が次の世代へバトンタッチされる瞬間が、ここにありました。

## 支援してくれる地域に感謝

熊大フィル顧問の吉永誠吾教育学部教授は「巡回公演は、県文化協会や熊本日日新聞社、九州電力各社の協賛や、宿泊場所を提供して下さる学校などがあって成り立っています」と地域一丸となつての支援に感



謝。「これから天草市に移動して、今夜は明日公演予定の小学校に泊めていただきます。家庭科調理室をお借りして大鍋で自炊し、寝るのは体育館や教室。大変だけど合宿みたいで楽しいですよ」。連日の厳しい練習をこなし、ステージに立つ川原さんたち113名の部員は、元気よく次の小学校へと旅立っていきました。

※学生の夏休みを利用して開催する公演。県内を5つのエリアに分け、年毎に1つのエリアを巡回。今年は8月29日から9月5日にかけて、宇城・天草地区の9つの小中学校をまわりました。同フィルは、毎年5月にサマーコンサート、1月に定期演奏会を開いています。

<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife/1685/>



水元先生が出す一見む  
ちゃな課題を、勵まし  
合いながら乗り越えて  
いるだけにゼミ生の団  
結力は強力です。



文学部コミュニケーション情報学科 水元ゼミ

水元 豊文 文学部准教授

## タフに、愚直に、 “実践人”を目指す

「うちのゼミの合言葉は“目指せ！熊大のノムショー（野村證券）”と言う水元豊文准教授。「厳しい課題を次々と課すので、学生にとっては大変と思うこともあるでしょう。でも、楽しいですよ」と続けます。文学部で、証券業界トップの企業を目標にする、その真意は？水元ゼミの実像に迫りました。

### コミュニケーションの 理論と実践を学ぶ

コミュニケーション情報学科は、従来の国立大学文学部の枠を超えて、社会で先進的な役割を担うことができる人材を育成しようと、平成17年4月に設置された学科です。言語や文化などに関連したコミュニケーションの問題、マスコミ、映像、音楽などのメディア、インターネットを中心としたICTまでを幅広く学びます。

専攻は、実践的な英語コミュニ

ケーション専攻と情報・メディア専攻の2つ。水元ゼミは情報・メディア専攻で、ゼミ生は3年が6人、4年が4人の計10人です。

### リーダーになることが大事 諦めなければ結果は出る

「うちのゼミは選抜します。基準は、どんな組織や集団においてもリーダーになれる人材」と水元准教授。社会人になり、自分のアイデアで組織や集団を引っ張っていける、その可能性を持っていることが選抜の

基準です。

「教科書を読んだだけで、何かができるわけではありません。教科書の行間にある苦しさを会得することが大事です。忍耐が身に付いていないと諦めてしまいます。しかし、諦めなければ結果は必ず出ます。野村證券は、愚直に日々のことをコツコツやれる人を育て、社員は結果が出るまで諦めません。学生たちには、そんな“愚直さ”を身に付けてほしい」。水元准教授が掲げるのは、ピシッとスーツを着こなしたエリートビジネスマンのイメージではないようです。



## 社会人との接点を増やす イベントを積極的に展開

「学内に閉じ込もっている学生は社会に出ると使えない場合が多い。社会人との接点を意図的に増やさないと、待っているだけでは何も変わらない」と水元准教授。ゼミでは、ほかの大学や社会人を巻き込んだイベントを積極的に展開しています。

昨年11月には、古賀宏史さん(4年)、古閑絵理香さん(4年)、久保綾香さん(4年)の3人が中心となり、幸山政史熊本市長を相手に、公約を検証するシンポジウムを熊本市民会館で行いました。

また、今年3月には、学生が一人ずつブースを持ち、そこに企業の社長や人事担当者が足を運び、通常とは逆パターンの「逆求人フォーラム」を開催しました。熊本県内の銀行やテレビ局など20社ほどが参加し、実際に就職につながった学生もいました。

「イベントの準備をしながら授業課題のレポートを仕上げることも

度々です。大変ですが、みんなで励まし合いながらやっています。きついけど、社会で使えるスキルが身に付いていると思います」と口をそろえる4年生たち。コミュニケーション能力と根性を鍛え、多くの企業の就職内定を勝ち取っています。

社会人を交えた飲み会が多いのも同ゼミの特長の一つ。逆フォーラムも、そんな席から生まれた企画でした。「熊本の学生は熊本に残ってくれない」という社会人の言葉に、「熊本で就職したい人はいっぱいいるのに」と答えた学生たち。「じゃあ、熊本で就職したい学生が地元企業に自己PRする場をつくったら?」と、水元准教授が学生の背中を押ししました。

一見むちゃと思える課題に挑み、それを一つひとつ乗り越えることで、社会につながる実践的なスキルと“愚直さ”を身に付けている学生たち。ゼミでは、冗談と本音が飛び交い、常に笑いが絶えません。最初に水元准教授が「でも、楽しいですよ」と付け足したのが分かりました。

コミュニケーション情報学科では、毎年自分たちで卒業アルバムを制作。ゼミで学んだ厳しさや楽しさを満載した青春の“記念碑”です。

「逆求人フォーラムの準備で忙しい時期は、研究室の机で5日間連続寝ました」と古賀さんが当時を再現してくれました。

熊本での就職を希望する学生が開いたブースに、地元企業の関係者が訪問して面談した“逆求人フォーラム”。

水元先生は厳しいだけではありません。フォローもしっかり。周りはずっと笑いが絶えません。

Q 水元ゼミ員になる条件は?

(条件) 1. いいかげんではない。 2. 根性がある。  
3. あがるい。 4. すなおである。 5. がしこい。

# アジア連携の一翼を担う学术交流拠点 熊本大学韓国KAISTオフィス開所

平成 20 年 9 月 9 日、韓国の科学技術都市・大田広域市にある韓国科学技術院 (KAIST) の Bio Medical Research Center 内に、熊本大学韓国 KAIST オフィスが開所しました。同時に第 1 回共同シンポジウムも開催され、両校における生命科学系分野の最先端の研究が発表されました。

## 韓国トップの大学 韓国科学技術院 (KAIST) と連携

韓国科学技術院 (KAIST) は、世界に肩を並べる研究者の育成を目的に、韓国政府 (科学技術省) の援助によって設立された国立大学です。前身は 1971 年に設立された、科学技術だけを専門とする大学院である Korea Advanced Institute of Science (KAIS)。1981 年に Korea Institute of Science and Technology (KIST) と統合され現在に至ります。韓国全国大学評価で 4 年連続総合 1 位、Asia Week 誌によるアジア地域理工系大学評価では 2 年連続で総合 1 位となるなど、国内外で高い評価を受けています。

本学は、2001 年に工学部・自然科学研究科と KAIST との間に部局間交流協定を締結。2006 年に大学間交流協定に発展し、以来、学术交流や「環黄海産学官連携大学総 (学) 長フォーラム」などを通して密接な協力体制を築いています。

## 熊本大学韓国 KAIST オフィス いよいよ稼働

「熊本大学韓国 KAIST オフィスは、両校の強みである研究分野における



オフィスの前で握手を交わす崎元学長と KAIST の Suh 院長を中心に記念撮影に応じる両大学の関係者

拠点となることが主な目的であり、両校の合同研究シンポジウム開催支援なども行います」と語るのは菊地晋一国際課長。開所式では、本学の崎元達郎学長と KAIST の Suh-Nam-Pyo 院長があいさつしてテープカットを行いました。

この後、第 1 回共同シンポジウムを開催し、生命科学分野における研究発表が行われました。発表者は、本学発生医学研究センターの田賀哲也教授、同小川峰太郎教授、同センター若手研究者である白木伸明・内山裕

佳子の両 COE リサーチ・アソシエイト、KAIST の Gou Young Koh 教授、同 Dae-Sik Lim 教授。最先端の研究発表に、参加者は熱心に耳を傾けていました。今回のシンポジウムの成功を受け、来年度は本学で 2 回目の共同シンポジウムを開催することが決定しました。

科学技術分野におけるアジアの連携強化が重要視される中で、韓国とのパートナーシップをより密にする熊本大学韓国 KAIST オフィスの役割に大きな期待が寄せられています。



中国・西安のシンボルとして有名な鐘樓の前に立つ前田さん。



## 前田 祐希

まえだ ゆうき

文学部文学科 4 年。2007 年 9 月より 2008 年 7 月まで、上海師範大学人文学院に交換留学。

## 発音が難しい中国語 友人の言葉が励みに

初めて中国語を面白いと思ったのは中学生の時です。コカ・コーラを「可口可樂」と書くことを知り、音の響きが合っているだけではなく、「口で楽しむことが可能」という意味も当てはまっているなど興味を持ちました。大学 1 年から中国語を学び、昨年 6 月に本学と上海師範大学の間で交換留学制度が始まったことを機に留学し、今年 7 月に帰国しました。

最初の半年は語学力を鍛えることを中心に、後半は中国人学生に混じり、中国文化や服飾の歴史を学びました。中国語は発音がとても大切。最初は私の発音が聞き取りにくいのか、相手に嫌な顔をされて、話すのが苦痛な時期もありました。でも、相互学習をしていた中国人の友人から「私にはちゃんと聞きとれる。自信を持って」と言ってもらえたことが励みになりました。

今回の留学に先立って短期留学した折には、バスの中で私と日本人の友人が互いに席を譲り合う姿を見た中国人の乗客に笑われたことがあります。今回は年配の人に席を譲る中国人を何人も見かけました。オリンピックの影響なのか、人々の考え方や習慣が変わってきたようです。特に、万博を控えた上海は、1 年間の留学中に鉄道路線数は倍になり、高層ビルもたくさん建設されるなど、変化が大きく刺激的な都市でした。これからも中国語の勉強を続け、将来は何らかの形で中国と関わる仕事に就きたいと思います。

6 月 3 日 / 熊本大学 G P I T 時代の教育イノベーター育成プログラムの一環として、国際セミナーを開催

英・ノッティンガム大学 Christine Humfrey 特任教授を招き「大学国際化戦略の理論と実践」について講演を行いました。45 名が参加しました。

21 日 / スリランカに足踏みミシンを贈りました

教育学部家政教育学科が女性自立支援のため、12 台の足踏みミシンをスリランカに贈りました。(P15 参照)

29 日 / 南台科技大学生短期滞在研修プログラムを実施 (7 月 12 日まで)

台湾から 30 名の学生が参加し、日本語、日本文化及び日本事情を学ぶとともに、県内外の工場見学を行いました。



7 月 2 日 / 韓国・梨花女子大学来学

7 日 / 崎元学長、豪・ニューカッスル大学を訪問(8日まで)

10 日 / 崎元学長、ニュージーランド・マッセー大学を訪問。大学間学術交流協定を締結

10 日 / 留学生スピーチ発表会を開催

本学の留学生が自国の文化等について日本語でスピーチを行いました。

14 日 / 仏・ボルドー第 1 大学来学

15 日 / 熊本大学グローバル COE「細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット」が米・ロチェスター大学において国際シンポジウムを共同開催(17日まで)

延べ約 70 名が参加し、熊本大学とロチェスター大学の双方から、若手研究者を含む口頭発表(14 件)やポスター発表(18 件)を行いました。



17 日 / 生命倫理セミナー「アジアの生命倫理・生命の価値」を実施(18日まで)

ユネスコ Social and Human Sciences のダリル・メイサー氏を招き、セミナーを行いました。15 名が参加しました。

28 日 / 熊本大学サマープログラム 2008 を実施(8 月 8 日まで)

中国及び韓国の大学生 30 名が参加し、日本事情に関する講義、日本文化体験及び見学旅行等を行いました。8 月 4 日には幸山熊本市長を表敬訪問しました。

8 月 27 日 / 韓国・仁川大学来学

29 日 / 熊本大学 e ラーニング連続セミナー「e ラーニングと学習科学—韓国と米国における教育実践の最新事情—」を開催

韓国及び米国から 3 名の講師を招き、効果的な e ラーニングに向けてセミナーを行いました。34 名が参加しました。

30 日 / 日本留学フェア (インドネシア・スラバヤ及びジャカルタ) に参加(31日まで)

2 日間で延べ 250 名の現地学生が熊本大学ブースを訪れました。





## お客様の困難を解決する“営業”



(株)日立製作所  
関東支社 公共情報統括グループ  
部長代理

の む ら か お り  
**野村 香緒里** さん  
(平成4年度 法学部卒業)

### 学生時代に気付いた「人と話すことが好き」

大学時代にはアイスホッケー部のマネージャーを務め、2年連続でインカレに出場しました。また、家庭教師や喫茶店などあらゆるアルバイトを経験し、多くの出会いがありました。先生方や友人たち、バイト仲間と過ごす中で、人と話すことが好きだと気付いたことが、営業職を選んだきっかけになったと思います。

現在は、関東支社本部の公共情報統括グループで部長代理という立場にいます。仕事は、担当エリアである関東甲信越の地方公共団体に対する、住民情報管理や年金徴収システムといった情報システムを構築するコンサルタント。顧客から新規システムの導入や入れ替えの依頼があると、部下とともに訪問し、お客様からの情報収集や国の動向などの情報提供を行います。そして受注・納入、アフターフォローまで、営業という立場でお客様とのお付き合いが続きます。

### 信頼を得るコミュニケーションが大事

営業職というのは「製品を売るのが仕事」というイメージがありますが、「お客様の困っていることを解決すること」が第一です。製品は、問題解決のためのツールです。お客様の話を聞き、どうすれば問題が解決できるかを考えることが信頼関係の構築につながり、注文につながっていきます。営業職に限らず、社会に出ると、私たちはより多くの人と接します。学生時代には、相手の目を見て自分の言葉できちんとコミュニケーションをとることを学んで欲しいですね。



本学キャリア支援課と文学部の学生たちが主催した「OB・OG交流会」(7月2日)で、学生に語る野村さん。



# 大切なことは子どもたちに『意識させること』



熊本大学教育学部附属小学校  
教諭

みや わき しん いち  
**宮脇 真一**さん

(平成2年度 教育学部卒業)

## ストライクゾーンの広い教師に

大学の小学校教員養成課程の副専攻で数学を学び、専門は算数です。小学校教師になって17年、附属小学校に来て12年、すべての教科を教えています。現在は1年生を担当。教室では大きな手で手を挙げるのではなく、周りに考えている子がいたらそれを邪魔せず静かに手を挙げるように指導しています。話すことも大切ですが、聞くことも必要だということを学んで欲しい。教育現場で大事なものは“アウェアネス=意識させること”。勉強が面白いと意識させることです。学ぶことには価値があるのだと働きかけることが大切です。そのため、教師は、子どもの興味に対する“ストライクゾーン”を広く持つておくべきだと考えています。

## 大学院でさらに勉強

父が同じく教師で、「楽をして教えようと思えば楽できる。しかし、努力しようと思えば限りがない」と言われたことを覚えています。教壇に立つと最初は子どもたちもついてきますが、教師が教科の基礎をしっかりとつかんでいないと飽きられ、しまいには授業そのものが頓挫してしまいます。“どうしてこうなるのか”、理屈を掘り下げると本当に複雑ですが、そこをこちらが分かった上で指導しないと、子どもたちは納得してくれません。また、子どもがとても価値のある発言をしているのに、それを見逃しているかもしれません。より良い授業にしたいと思い、今年4月から熊本大学大学院に籍を置き、週2回夜間の講義や長期休業中の集中講義を受けています。



1年生の授業で算数(ミニタングラム)を教えている宮脇さん。



# 魅惑の街角アートパフォーマンス

街に響くジャズの甘く切ない音色。しみじみと心に浸みるアコースティックギターの弾き語り。そして、繊細かつ華麗なクラシック音楽…。熊本市の中心市街地では今、音楽を中心とした Street Art-plex KUMAMOTO のパフォーマンスが年間約 20 回も繰り広げられ、街に新たな魅力を創造しています。



## 商店街のイメージアップを

Street Art-plex KUMAMOTO は、熊本市の中心街に「熊本市現代美術館」がオープンした年と同じ 2002 年に誕生しました。中心市街地活性化事業の一つとして美術館周辺の商店街の若者がストリート上で、音楽、ダンス、絵画、書などのアーティストによるパフォーマンスを展開、好評を博したことによります。その後、中心市街地の商店街と市、商工会議所などが一体となって Street Art-plex KUMAMOTO 実行委員会を組織。街角や熊本城の広場、美術館などで、だれもが無料で見たり聞いたりできるイベントを次々と開催しています。

自らもサクソ奏者としてイベントに出演することがある Street Art-plex KUMAMOTO 実行委員長の葉山耕司さん(会社役員)は、「一過性のイベントで人を集めるのではなく、商店街の通りをステージにした芸術文化の創出を図り、個性的な街づくりを進めよう」と始めた活動です。だから、イベントにたくさんの人を集めるよりは、たまたま通りがかった人に楽しんでもらえばいい、というのが基本です。ただ、先日イベント会場で行ったアンケートで『Art-plex を目的に街に来た』という

人たちが少なからずいるのが分かり、今後の活動の励みになりました」。街角から発信する芸術文化創造の活動は、市民の間で着実に認知され、葉山さんたち実行委員会のメンバーも確かな手ごたえを感じているようです。

## 多彩な催しで街に活気

スタートから 6 年。Street Art-plex KUMAMOTO の一貫した哲学は「すべての表現スタイルに門戸を開き、“日常”と“表現活動”の間に境界線を設けないこと」。

毎年 10 月には複数の場所を会場に、多彩なジャンルの音楽を提供する『Street Art-plex EXTRAVAGANZA』を開催。7 月にはジャズ、3 月には大道芸などのパフォーマンスを定期的で開催するほか、クラシックコンサートなどを不定期に開催。年に約 20 回ものイベントで街に活気を生んでいます。



Street Art-plex KUMAMOTO 実行委員会委員会のメンバー。中列右から 2 人目が実行委員長の葉山さん。

Street Art-plex KUMAMOTO <http://www.artplex.jp/>

## Topics

# 中国・四川大地震 本学での留学経験を活かし、 被災者ケアに奔走



チン  
陳孜さん

2007年大学院医学研究科修了  
中国・成都医学院勤務  
応用心理学博士



今年5月に発生した四川大地震。本学でも募金活動を行いました  
が、被災地ではいまだにテント暮らしの被災者や PTSD (心的外傷後  
ストレス障害) を発症する子どもたちが多く見られ、復興への道のり  
はまだまだ遠いようです。そんな中、本学大学院医学薬学部臨床行動  
科学分野の北村俊則教授のもとに留学していた陳孜さんが、現地で被  
災者ケアに奔走しています。



救援活動に従事した消防隊員も、悲惨な現場を目の当たりにした。  
陳さん(写真左端)は、彼らの心のケアも行っている。

### 自分にできる限りのことをしたい

陳さんは、大学時代に精神病学の教科書で北村教授の研究を参考にしたことが縁となり、2001年4月から2007年3月まで熊本大学大学院医学研究科に留学していました。帰国後は、四川省で唯一、心のケア専門医療機関である「四川省応用心理学研究センター」がある成都医学院で、中国人の人格と若者の性行動をテーマに研究を進めながら、精神病学(日本では「精神医学」)を教えていました。そして今年5月12日、四川大地震が発生。陳さんは「ただ、自分にできることをやりたかったから」と、現地で子どもたちを含む被災者や都江堰で救護活動をした消防隊員の心のケアを始めました。

「地震発生直後の混乱の中、日本の先生方からすぐにお見舞いの電報をいただき、感動しました。皆さんに感謝の

気持ちを伝えたいです」と言う陳さん。

心配なのは、被災者の PTSD です。「接触した被災者の子どもたちは、思っているより強く、回復も早かった。でも、さまざまな問題があり、特に両親を失った遺児たちのこれからの生活が心配です」と語ります。

### これからが正念場

留学時代に陳さんを指導した北村教授は、阪神淡路大震災後、厚生労働省が組織したメンタルヘルスケアチームの第一陣として、最も被害のひどかった長田地区に入った経験があります。折にふれて、その話を聞いていた陳さんは今、その時の報告書を参考に活動しています。

北村教授は「災害後1年くらい経つと、ケアを担当する側にも疲れが出てきます。そして、親を亡くした子、子を亡くした親、そういった被災者が来年はどうなっているか。災害後一定の時間が経ったこれからも、本当は支援が重要なのです」と世間の関心が薄れつつある状況と陳さんの体調を懸念しています。

陳さんは「オリンピックが開催されたことで、みんなが浮かれてしまったのが残念です。今後、自分の研究テーマを被災後の支援に移すことになるかもしれません」。震災後の被災者ケアについて学ぶため、再び日本に留学することも視野に入れながら、支援活動に奔走しています。



北村俊則教授

## 教育学部がスリランカに足踏みミシンを贈呈



届いたミシンを前に喜ぶスリランカ  
国営裁縫教室の皆さん

今年6月、本学教育学部家政教育学科は、大学の重点配分経費(国際交流推進)を受け、学科で使わなくなった12台の足踏みミシンをスリランカに贈りました。同学科の桑畑美沙子教授が家庭科教育の調査で現地を訪問した際、



1台1台丁寧にミシンを梱包する学生たち

「電気が十分に普及していないスリランカでは、足踏みミシンが大変重宝され、女性たちの自立支援を行う職業訓練などで活かされている」と知ったことが

きっかけです。「物を大切に、途上国の女性の自立を支援しよう」と

言う桑畑教授と同学科の雙田珠己准教授の呼びかけに約40名の学生たちが集まり、ミシンを梱包、スリランカの女性支援をしている団体に送り出しました。このミシンは7月下旬、スリランカ JICA 隊員の方々のサポートを受け、同国の国営裁縫教室の生徒のみなさんのもとに届けられ、大変喜ばれました。

## 病児保育モデル事業スタート

本学は、病児保育を行っている熊本市の「NPO 法人チャイルドケアサポートみるく」と提携し、学内にある「こぼと保育園」の園児を対象に



「病児保育モデル事業」の契約を交わす本学の森理事(左)とNPO法人チャイルドケアサポートみるくの杉野理事長(右)

した「病児保育モデル事業」を9月1日からスタートさせました。

今回のモデル事業は、病気による発熱などで保育園に通園できない子どもたちを、保護者である職員に代わって同

NPO 法人の施設で看護師などの専門家が看護し、職員のワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)をサポートする仕組みです。平成18年度に文部科学省の「女性研究者支援モデル事業」に採択された本学の「地域連携によるキャリアパス環境整備事業」の一環として実施され、県内の大学としては初めての試みです。

同園を利用している職員は「仕事を休むことなく、安心して子どもを預けられます」と歓迎しています。男女共同参画推進室長の森光昭理事は「モデル事業を成功させ、本格実施につなげたい」と語っています。

## 第3回熊本大学ホームカミングデー開催(11月2日)

本学卒業生の皆様をお迎えし、本学の近況に触れながら懐かしい方々と旧交を温めていただく催し。恒例のキャンパスツアーのほか、講演会などを予定しています。講師は桑昭苑発生医学研究センター教授(演題「ES細胞・iPS細胞・そして夢の再生医学」)と北野隆本学名誉教授(演題「よみがえる熊本城」)。詳細は本学ホームページ(<http://kumamoto-u.ac.jp/>)に掲載しています。

参加ご希望の方は、事前に下記お問い合わせ先までご連絡ください。

日時：平成20年11月2日(日)午後1時～6時30分 会場：熊本大学工学部百周年記念館

問い合わせ：熊本大学総務部総務課「第3回熊本大学ホームカミングデー担当」

TEL：096-342-3116 FAX：096-342-3110 E-mail：kuma-hcd@jim.kumamoto-u.ac.jp

## 第6回熊本大学フォーラム(スラバヤ)開催(11月5日～6日)

日本とインドネシアの友好50年を記念して、インドネシアのスラバヤ市で開催します。詳細は <http://www.braineye.co.jp/congre/kuf/japanese>

日時：平成20年11月5日(水)～6日(木)

問い合わせ：第6回熊本大学フォーラム(スラバヤ)事務局

TEL：096-342-2131・2106 E-mail：surabayaforum@jim.kumamoto-u.ac.jp



## EVENT 掲示板

大学祭や関連イベント情報満載！  
地域の皆さま、遊びに来てください。

### 大学祭“熊粋祭”

■開催期間：平成20年11月1日(土)～3日(祝) ■開催場所：黒髪キャンパス ■テーマ「心粹」

### 医学部祭“本九祭”

■開催期間：平成20年11月1日(土)～2日(日) ■開催場所：本荘・九品寺キャンパス ■テーマ「笑撃本九祭～smile☺kumile」

### 薬学部祭“薬学展”

■開催期間：平成20年11月3日(祝) ■開催場所：大江キャンパス ■テーマ「光」

### “本九祭”共同企画 『幹細胞』がキーワードのイベント

生きている実験動物の展示や今話題の幹細胞研究紹介、第一線で活躍する先生たちとの対話など楽しい企画が満載です。

#### ① 展示「再生医療への一步」ES・iPS・幹細胞ってな～に？

■開催期間：平成20年11月1日(土)～2日(日) 両日とも午前11時～午後5時 ■開催場所：熊本大学発生医学研究センター1階カンファレンス室

#### ② 講演会「幹細胞」再生医療はどう変わる？ ■開催日時：平成20年11月2日(日)午後1～2時 ■開催場所：医学部第1講義室

#### ③ サイエンス・カフェ 科学者と話そう「幹細胞と未来の医療・暮らし」

■開催日時：平成20年11月2日(日)午後2時～3時 ■開催場所：医学部B棟1階ロビー

■問い合わせ：発生医学研究センター 臼杵 TEL：.096-373-6577 E-mail：usu@kumamoto-u.ac.jp

### 夢科学探検 2008 -理学部探検,工学部探検,もの・クリchallenge-

毎年多くの皆さんに好評の体験型のイベントのほか、学生の作品展示も行います。来て、見て、触れて、「科学」を楽しんでください。

■開催日時：平成20年11月2日(日)午前10時～午後4時 ■開催場所：熊本大学理学部・工学部・自然科学研究科(黒髪南キャンパス)

■問い合わせ：夢科学探検 2008 事務局 TEL：096-342-3522 E-mail：yume@tech.eng.kumamoto-u.ac.jp

### 植物色素研究会 20周年記念 市民公開講演会

「今、植物の色が旬」というテーマで、植物色素と健康の関係や青いバラの誕生秘話を講演予定です。

■開催日時：平成20年11月29日(土)、午前10時20分～12時半

■開催場所：熊本大学工学部百周年記念館

■問い合わせ先：大学院自然科学研究科 吉玉 TEL・FAX：096-342-3439

E-mail：tama@aster.sci.kumamoto-u.ac.jp

<http://www.geocities.jp/shikisoken/>

どのイベントも、参加無料・申込不要です。多くの皆さまのお越しをお待ちしています。  
イベント情報は  
<http://www.kumamoto-u.ac.jp/>  
に掲載しています。

## CAMPUS 歴史さんぽ

### 肥後医育の誇りと伝統を伝える 山崎記念館

医学部の前身、熊本医科大学の県立から官立(国立)移管に尽力し、その初代学長となった山崎正董博士。この記念館は、昭和6(1931)年に「山崎記念図書館」として建設され、その後、名称を「山崎記念館」と改めました。建物は平成10(1998)年に国の登録有形文化財に指定され、平成18(2006)年医学部附属病院の新中央診療棟の建設に伴い、曳き家工法で現在地へ48m移動し90度回転しました。



### 本荘・大江(医学部)キャンパス



五高記念館に「熊本大学歴史散策マップ」が置いてあります。

## 熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No3(平成20年6月1日～平成20年8月31日)

卒業生、在学生の保護者、名誉教授の方々をはじめとした皆様から、平成20年8月31日現在で、総額約1億8,669万円(うち熊本大学振興会からの寄附約1億2,063万円を含む)のご寄附をいただきました。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成20年6月1日から平成20年8月31日までの間にご入金を確認させていただきました個人325名、7法人・団体等のご寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ここにご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されないご寄附者につきましては、掲載しておりません。

また、ご寄附者で万が一お名前がもれている場合につきましては、誠に恐縮ではございますが、募金推進室(電話：096-342-2029)までご連絡ください。

なお、第1期の募集目標金額は10億円となっております。皆様の一層のご支援とご協力を賜りたくお願い申し上げます。

### 1. お名前・寄附金額の掲載を希望されたご寄附者 [寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。] ※( )内の数字は、累積寄附金額(万円)です。

100万円	出田 秀尚	稲垣 精一	切通 良昭	崎元 達郎(400)	鶴田 克明			
20万円	荒木 功	伊東 繁	江藤 孝	小川 久雄	庄司 省三	高森 壽	野中 敬正	
10万円	生田 翔	岩永 研一	梶島 武雄	倉津 純一(11)	世良 好史	高橋 誠一(60)	寺沢 宏明	
	鳥居 修一	丸山 徹	吉田 勇					
5万円	有地 鎮雄	有馬 英俊(10)	内野 明德	工藤 磐	斎藤 秀之	島 博保	末永 綾香	
	高倉 二男	高野満洲男	田上 良輔	常田 明夫	中山 仁			
5万円未満	池田 剛	石川 貞嘉	伊藤 恒雄	今林 茂	内川 和美	笠原 一徹	北原 宏	
	木村 俊夫	小池 克明	古崎新一郎	小松 俊文	近藤 武彦	酒井 哲夫	坂下 直実	
	坂本 遼一	澤田 敬	紫垣 昭三	島村 英雄	城 康彌	竹内 知子	玉井 良照	
	中西 良一	中村 亮一	服部 要	原 洋一	針谷 栄蔵	東 宏美	樋口 安宣	
	平井 智憲	正元 和盛	溝口鐵太郎	満田巳一郎	山尾 敏孝	山崎 未人	吉玉国二郎(8)	
	吉村 和久	渡部 翼	アトリエ・HOSO・建築設計研究室					

### 2. お名前のみ掲載を希望されたご寄附者 [寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。] ※[ ]内の数字は、累積寄附回数です。

赤池 孝章	浅原 芳資	浅原百合子	安部 眞一	安部 芳正	有馬 幸則	安東由喜雄[2]	生野 浩正
石飛 光章	井上 高宏[2]	井上 彪夫	井上 泰輝	今戸佐太郎	今村 惟義	岩下 勉	上田 寿俊
上田 博是	上田 裕市	上野 三男	上野 満生	上村 順一	宇佐美しおり	蛭原 健治	遠藤 文夫[2]
大澤 正尚	大槻 瓊士	大坪 哲也	大坪 庸子	大森不二雄	緒方 公一	緒方 智成	緒方 優紀
岡元 勉	甲斐 広文	柏原 泰登	春日 剛毅	桂木 猛	金山 勝之	鎌田 睦	川上 恵偉
川口 辰哉	河津 龍介	木川 和彦	菊池 峰生	菊池 泰子	北川 秀昭	北野 典子	北村健一郎
絹脇 康春	木本 博明	久我 義隆	國枝 武久	小糸 博文	古閑 政則	小村 芳之	近藤 繁美
近藤 好樹	阪口 薫雄[2]	佐藤 伸子	佐藤 義廣	澤山 浩	篠熊 彬	城川 康博	末永 通子
杉安 昭良	杉山 正悟	千住 寛	多賀 進	高岡 一郎	高濱 和夫	田尻 邦治	立花 昭生
立居場純子	田宮 又男	津田 則行	土屋 守広	続 康磨	永松 仁	仲山 一郎	中山 鎮治
名川 泰雄	並川 和男	西尾 昭彦	西田 稔伸	沼田 俊郎	萩原 正泰	橋口 英夫	羽山 富雄
稗田 朋也	東 隆之	日隈陸太郎	廣江 哲幸	廣田 昭三	福澤 清	福島 幹郎	福地 龍夫
藤田美歌子	藤丸 邦彦	藤本雅太郎	藤本 義人	淵上 尊夫	本田 喬	本田 政則	前田 暢彦
前畑 勲	松永 信智	眞弓 重則	宮川 勇生	宮崎 章	宮崎 泰起	村上 了一	両角 光男
山口 一史	大和 三二	山野邊國雄	吉住 完治	吉田 哲雄	吉永 誠吾	吉野ひとみ	吉本 俊裕
和田 久子		医療法人弘誠会寺本整形外科医院	医療法人正行会藤村医院[2]			医療法人山田クリニック	
株式会社ハートフェルト		西日本システム建設株式会社					

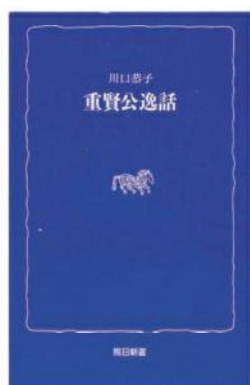
### 3. お名前・寄附金額の掲載を希望されないご寄附者

個人 133 名、1 法人・団体等

新聞で見る  
熊本大学

著作権の都合によりWeb上では公開しておりません。

## My book レビュー

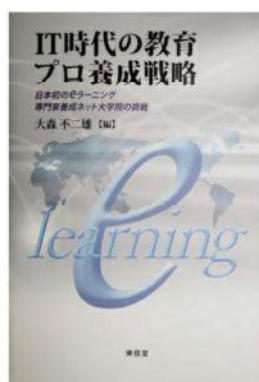


### 『重賢公逸話』

熊本大学客員教授 川口 恭子

藩財政困難のなかで藩主となった細川家第8代重賢は、名補佐役堀平太左衛門の協力を得て諸改革を行い名君と称えられています。そばで見聞きした人々の証言を集めた「聞くまゝの記」により超儉約の日常をご紹介します。

著者：川口恭子  
定価：952円(税別)  
発行：熊本日日新聞社



### 『IT時代の教育プロ養成戦略 —日本初のeラーニング専門家養成ネット大学院の挑戦—』

大学教育機能開発総合研究センター教授 大森 不二雄

熊大が創設した日本初のeラーニング専門家養成大学院「教授システム学専攻」の取組みをベースに、eラーニング推進に必要な理論・知識・スキルを体系的に考察した本書は、学術と実践の両方への貢献を目指しています。

編著者：大森不二雄  
定価：2,600円(税別)  
発行：東信堂

附属図書館「熊大コーナー」にも置いてあります。

未来へつなぐ

熊大の  
“宝”

## (財)永青文庫寄託「細川家北岡文庫」

### 千年の想いを次代へ

千年の時を経てなお、  
愛の物語として語り、読み継がれる源氏物語。

戦国の日々を生き抜いた肥後細川家初代の幽斎公もまた、  
物語に描かれた平安の愛の世界を慈しむ時があったのか、  
直筆の写本を残しました。

幽斎公を祖に持つ肥後細川家は、  
この写本をはじめ、多くの貴重な史・資料をあまねく後世に伝えています。  
その一部、約5万点の典籍や古文書が本学附属図書館に寄託され、  
研究に活用されています。

平安から戦国、江戸…そして現代、未来へと託される想い  
私たちははるかな道のバトンを受け継いでいます。

#### 第25回 熊本大学附属図書館貴重資料展「源氏物語千年の時」

期間：平成20年10月30日(木)～11月1日(土) 午前9時～午後4時

会場：熊本大学附属図書館(中央館)B1F 自由閲覧室

内容：源氏物語千年紀を記念して、源氏物語を中心にした貴重な資料の  
展示公開と「源氏物語と住吉の姫君」などの公開講演。「第3回永青文庫  
セミナー」も同時開催。いずれも無料。詳細は附属図書館ホームページ  
(<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/>)をご覧ください。

幽斎公直筆の写本と江戸時代を代表  
する土佐派の絵師、土佐光起が描いた  
源氏物語の一場面を装丁に使った江  
戸時代の写本。

## 熊本大学は来年60周年を迎えます

昭和24(1949)年5月に熊本大学が発足して、来年で60周年を迎えます。地域と共に歩んだ60年間を記録し、今後の発展に貢献する基礎資料を編纂・刊行するために、平成20年4月に「熊本大学60年史編纂室」を設置しました。

写真や資料、情報等の提供にご協力をお願いします。

熊本大学60年史編纂室 TEL: 096-342-3951

### 編集委員

田中尚人 大学院自然科学研究科

田村耕一 法学部

首藤 剛 大学院医学薬学研究部

西村兆司 広報戦略主幹

熊本大学広報誌  
熊大通信  
KUMADAI TSUSHIN

皆様のご意見・ご感想をお寄せください。

2008年10月発行 編集・発行 / 熊本大学  
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号 TEL.096-342-3119 FAX.096-342-3007  
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

熊本大学公式ホームページ  
<http://www.kumamoto-u.ac.jp/>